

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.2.1.①							
課題・基本方針	適正なりサイクルの推進							
施策の分類	分別徹底による資源化の促進							
施策名	【継続・強化】施策①:分別状況確認の強化							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
資源化率	35.3%	42.0%	45.0%	34.9%	34.1%	34.4%	39.2%	38.4%
施策内容	<p>分別状況の確認を徹底し、結果を周知することにより、市民・事業者のごみの分別に対する意識の向上及び分別徹底を図り、資源化への取り組みを促進します。なお、分別徹底のための情報提供・普及啓発については、p37に示します。</p>							
社会情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック資源循環促進法の施行(令和4年4月) ・新型コロナウイルス感染症拡大 							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類ごみの分別回収の実施にあたっては、自治会や管理組合だけでなくサークル等の希望団体を含めて説明会を開催し、分別の周知徹底を図った。ごみ出しルールを守らない所にはごみパトロール隊が排出指導を行っている。マンション管理組合では廃棄物減量等推進員がごみ担当を担っている。 ・原則的に分別が適切でない家庭のごみは収集せず、お知らせシールを貼って置いておくことになっている。収集業者との業務連絡会では、分別状況等の確認をおこなっており、特別に周知を行った方が良い内容については市がチラシの作成をおこない、収集業者がマナーを守っていない家庭に対してポスティングを行う等の対応を行っている。また、ごみアプリについては未掲載の品目について、市への問い合わせや収集業者の気づきにより掲載を行い、内容の充実を図っている。 							
後期に向けた評価	<p>プラスチック類ごみの分別回収を開始し、資源化率は向上したが、指標の達成には至っていない。分別に関する周知を行い、更なる分別を進めていく必要がある。</p>							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・分別に関しては廃棄物減量等推進員や広報、エコー、ごみ分別アプリ、LINE等、時代に即した様々な手段を用いて周知していく。 ・定期的に業務連絡会を開催し、分別についての情報交換を進めながら業務の改善を図っていく。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.2.2.②							
課題・基本方針	適正なりサイクルの推進							
施策の分類	生ごみの減量・資源としての活用の促進							
施策名	【継続・強化】施策②：家庭内における生ごみの減量・資源化の促進							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
生ごみ減量・資源化への取り組み世帯数	補助2,835件、ステッカー1,281件	4,000件	8,000件	補助3,716件、ステッカー1,479件	補助4,140件、ステッカー1,598件	補助4,571件、ステッカー1,717件	補助5,087件、ステッカー1,821件	補助5,683件、ステッカー1,927件
施策内容	家庭内における生ごみを循環等させることによって、生ごみの減量及び資源化を促進し、可燃ごみ量の削減を目指します。							
社会情勢等の変化	新型コロナウイルス感染症拡大							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による在宅時間の増加により、生ごみ処理器購入補助制度の利用者は拡大している。 ・生ごみリサイクルステッカーの配布及び配布状況を確認している。 ・コロナ禍により講習会等の実施が難しい状況があったため、ひの・まちの生ごみを考える会により、コンポストを普及する動画制作や、オンライン講習会を実施。現在は、感染対策を行い、対面のダンボールコンポスト講習会も再開している。 							
後期に向けた評価	コンポストについては拡大している。指標については世帯数の把握が難しいため、検討が必要。							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・コンポストについてはダンボールコンポスト以外にもバック型のコンポストや家で堆肥を利用しない方向けのコンポストもあるため、ニーズに合わせた生ごみの減量を検討していく。 ・指標については補助件数やステッカーの件数で推移を確認していく。指標内容は補助件数とステッカー件数」とし、令和8年度の指標は「補助8,000件、ステッカー2,500件」とする。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.2.2.③							
課題・基本方針	適正なりサイクルの推進							
施策の分類	生ごみの減量・資源としての活用の促進							
施策名	【継続・強化】施策③：地域内での生ごみ循環の促進							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
生ごみリサイクルサポーター登録者数	21名	30名以上	50名以上	21名	21名	21名	18名	18名
施策内容	地域内における生ごみを循環させることによって、生ごみの減量及び資源化を促進し、可燃ごみ量の削減を目指します。							
社会情勢等の変化	-							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみリサイクルサポーターによるダンボールコンポスト講習会等、生ごみ処理器の普及活動によって生ごみの減量に向けて動いている。 ・既存のコミュニティガーデンについて、移転先の検討を進めており、本計画において、新たな位置づけも検討する必要がある。 ・新たな生ごみの分別収集・資源化に向けて先進市の事業を情報収集している。 							
後期に向けた評価	生ごみリサイクルサポーターの登録者数は減少しているが、補助事業の利用者は増えている。協議会が新規に立ち上がったこともあり、改めて生ごみリサイクルサポーターの役割を見直し、新たな展開の検討が必要。 また、コミュニティガーデンの今後の方向性についても、位置づけを進めていく。							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物減量等推進員の講習会でダンボールコンポストの周知を行う等の展開を行っていく。 ・新たな生ごみの分別収集・資源化に向けて先進市の事例等を研究し、検討していく。 ・サポーターの役割、位置づけ等を整理するとともに、広く市民に浸透するような仕組みづくりを検討していく。 ・コミュニティガーデンについては、日野市クリーンセンター、浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設、河川防災ステーションを「ごみ減量推進ゾーン」として位置づけ、生ごみたい肥事業の拠点を設置し、全市での取り組みの中核的な役割を担うとともに、環境学習や地域コミュニティの創出等、様々な役割を担う場として活用していく。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.2.2.④							
課題・基本方針	適正なりサイクルの推進							
施策の分類	生ごみの減量・資源としての活用の促進							
施策名	【継続・強化】施策④：事業系食品廃棄物減量・リサイクルに向けた取り組みの推進							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
説明会参加事業者の事業参加率	給食残渣のリサイクル推進	説明会参加事業者の事業参加率10%以上	説明会参加事業者の事業参加率30%以上	未着手	未着手	未着手	未着手	手前どりPOPを実施
施策内容	事業系生ごみ(食品ロスや食品残渣)を削減することによって、減量及び資源化を促進し、可燃ごみ量の削減を目指します。							
社会情勢等の変化	企業のESGに対する認識の向上							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食については残渣を資源化施設に搬入し、バイオガス化を行っている。 ・食品リサイクル法対象事業者(年間100tを超える食品廃棄物が発生する事業者)は食品廃棄物等の発生抑制、再生利用、減量等の取り組みを実施している。 ・セブン-イレブンでエシカルプロジェクトや手前どりPOPの設置等により食品ロスの削減の取り組みが始まった。(手前どりPOPは市から依頼して設置) ・飲食店でも食品ロスが出ないような仕入れの実践に取り組んでいる。 							
後期に向けた評価	主体的に食品ロスの削減に取り組む事業者がでてきているため、事業者と市が相互に提案しながら新たな取り組みを促進していくことが必要。							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に課題に取り組む事業者が拡大しているため、事業者と市が相互に提案しながら新たな事業を進めていき、優良な取り組みをPRすることで、新たな事業者の参加を拡大していく。 ・指標内容については「事業者等との協働による事業系食品廃棄物減量・リサイクルに向けた取り組みの推進」とし、令和8年度の指標は「取り組みの実施」とする。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.2.3.⑤							
課題・基本方針	適正なリサイクルの推進							
施策の分類	プラスチック類の減量・リサイクル							
施策名	【新規】施策⑤:プラスチック類の減量及び分別回収・リサイクルのための働きかけ							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
プラスチック類回収量、資源化率	建設準備	3,500t/年以下	2,800t/年以下(混入物ゼロへ)	建設準備	建設準備	838t/年(1月分から)	3,239t/年	3,141t/年
施策内容	<p>令和2年より、日野市では焼却量の削減のため、プラスチック類の分別回収・リサイクルを開始し、資源としての適正な排出を市民に求めています。</p> <p>プラスチック類の資源化による環境負荷の低減を図り、排出量の削減に対する国等への働きかけや分別の徹底を実施します。</p>							
社会情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック資源循環促進法の施行(令和4年4月) ・新型コロナウイルス感染症拡大 ・海洋プラスチック問題を契機とした環境意識の向上 							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年からプラスチック類ごみの分別回収を開始した。回収は容器包装プラスチックと製品プラスチックの一括回収にした。 ・プラスチック類ごみは有料となり、お返し大作戦への影響は特になし。 ・プラスチック資源循環促進法が施行し、特定プラスチック製品の減少が見込まれるとともに代替品の利用が促進されると思われる。 							
後期に向けた評価	<p>プラスチック類ごみの分別回収を開始し、令和3年度指標の回収量は達成した。令和8年度に向けた更なる削減を目指す。</p>							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のプラスチック類ごみ排出量の動向を見ながら、さらなる削減を図っていく。 ・公共施設におけるペットボトル自販機の抑制を進めていく。 ・411①の「施策①:容器包装お返し大作戦・販売店回収の強化」を推進し、協力店舗を拡大し、拡大生産者責任のもと、さらなる削減に努めていく。 ・事業者の進めるプラスチック類の削減事業を注視しながら、事業者との連携の検討を進めていく。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.2.4.⑥							
課題・基本方針	適正なリサイクルの推進							
施策の分類	剪定枝の減量(可燃ごみ)・リサイクル							
施策名	【新規】施策⑥:剪定枝の減量・リサイクルの推進							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
剪定枝の資源化による可燃ごみ削減量	情報収集	1,300+/ 年以上	1,800+/ 年以上	-	-	2+/ 年減	306+/ 年減	1,083+/ 年減
施策内容	<p>現在大半が可燃ごみとして処理されている一般家庭から排出される剪定枝や公園・街路等の公共施設から排出される剪定枝等を資源化し、可燃ごみの減量に取り組む。</p> <p>現在市内には公営・民間ともに資源化施設がないため、資源化方法については、市外の民間施設の活用を含め費用対効果等を検証し、実施方法を検討する。</p> <p>更に、剪定枝以外の落ち葉や草・花等についても資源化できるように検討を進める。</p> <p>また、現在可燃ごみとして各世帯から回収している剪定枝(1世帯2束の排出)についても、市民の協力を得ながら資源化できる方法について検討を進める。</p>							
社会情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大 ・厳しい経済状況 							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設から排出される剪定枝等は民間の資源化施設に排出している。 ・剪定枝拠点収集事業はルール違反による事前持込や不法投棄が後を絶たなかったため、廃止した。 ・クリーンセンターでの剪定枝(落ち葉・小枝含む)の無料受け取り(月1回)を開始し、利用者も順調に拡大。ここで受け取りした剪定枝は民間の資源化施設に排出している。 ・可燃ごみとして各世帯から回収している剪定枝を資源化する場合、可燃ごみと別に分別収集する必要があるため費用面での課題がある。 							
後期に向けた評価	<p>コロナ禍により、一時的に可燃ごみの量は増加したが、剪定枝の資源化は着実に拡大。更なる拡大に向けて検討が必要。</p>							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンターでの剪定枝無料受け取りの利用者が拡大しているため、受け入れ続けられるように対応していく。 ・新たな剪定枝等の資源化の拡大については費用面の課題があるため、引き続き可能な方法を検討していく。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.2.5.⑦							
課題・基本方針	適正なリサイクルの推進							
施策の分類	リサイクル品目の拡大・拡充							
施策名	【新規】施策⑦:リサイクル品目拡大・拡充の検討							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
リサイクル品目	なし	1品目以上	1品目以上	未着手	未着手	未着手	1品目	1品目
施策内容	リサイクル品目の拡大及び拡充については、費用対効果を踏まえつつ推進することで、ごみの埋立量ゼロを目指します。また、リサイクル品目の拡大・拡充に関しては、検討段階であるため、市の行動計画を表記します。							
社会情勢等の変化	・厳しい経済状況							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度からごみの埋め立て量ゼロを達成している。 ・令和2年度から浅川清流環境組合の構成3市（日野市、国分寺市、小金井市）とHOYA株式会社アイケアカンパニーは使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収に関して協定を締結し、拠点回収を開始した。（複数の自治体が共同で協定を結んだ例は全国初です。） ・紙おむつは東京都でリサイクルの検討を進めている。 ・陶磁器・ガラス類、ゴム・革製品、廃油リサイクル等の検討を行っているが費用対効果の面で課題がある。 							
後期に向けた評価	使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収により指標は達成。回収品目の拡大については費用対効果の観点から踏まえて検討が必要。							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きごみの埋め立て量ゼロを維持していく。 ・使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収を継続していく。 ・紙おむつのリサイクルは東京都の検討状況に沿って進めていく。 ・新たな回収品目の拡大は費用対効果を確認しながら検討していく。 ・当面はリサイクル前のリユースに力を入れることで廃棄物の発生を抑制する。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.3.1.①							
課題・基本方針	ごみ減量の意識向上に向けた普及啓発・情報提供							
施策の分類	市民・事業者のごみ減量意識の向上・環境学習の充実							
施策名	【継続・強化】施策①：情報紙・市報等による普及啓発・情報提供							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
ごみアプリ 総ダウンロード数	5,411件	7,000件 以上	10,000 件以上	12,159 件	15,299 件	20,884 件	27,331 件	33,988 件
施策内容	<p>■普及啓発 市報等の情報紙の更なる工夫や、情報内容の充実等を行うことによって、ごみに関する環境問題及びごみ減量に対する意識の向上を図り、普及啓発を促進します。</p> <p>■情報提供 全市民が、適正なごみ分別ができるような啓発を行い、周知徹底を図る。</p>							
社会情勢等 の変化	-							
進捗状況	<p>■普及啓発 ・ごみ・資源分別カレンダーはより良い内容を改善するため、毎年見直しを行っており、見える化やプラスチックの分別についてお知らせしている。 ・エコーには重要な情報のみを掲載し、内容の焦点化を図った。詳細の情報はQRコードを活用する方式に改めた。市報も同様の方向となっている。ごみアプリの情報発信もごみに関するものを中心に重点化していく。</p> <p>■情報提供 ・プラスチック類の資源化についてはきめ細やかに説明会を開催し、円滑に実施する事ができた。今後、新たなごみ減量等の取り組みを始める際は丁寧な説明を行っていく。 ・転入者については市民窓口課での転入手続きの際に必要な情報を提供していく。 ・市民活動団体やイベント情報は社会福祉協議会が運営する「Hi know!」に掲載されている。 ・グリーンセンターの見学の手引きを作成し、ごみ処理や最終処分場の流れを見える化し、ごみ減量の意識づけを図っている。</p>							
後期に向けた 評価	ごみアプリの総ダウンロード数は指標を達成。普及啓発・情報提供については常に改善を図っていく仕組みを継続。							
今後の方向性	<p>■普及啓発 ごみ・資源分別カレンダーやエコー、ごみアプリ等の情報発信は常に改善を図っていく。</p> <p>■情報提供 分別についてはごみアプリを活用し、引き続き分別情報を提供していくとともに、特に気を付けてもらいたい内容はエコーへの掲載やごみアプリのプッシュ通知、日野市公式LINEを利用し、周知徹底を図っていく。</p>							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.3.1.②							
課題・基本方針	ごみ減量の意識向上に向けた普及啓発・情報提供							
施策の分類	市民・事業者のごみ減量意識の向上・環境学習の充実							
施策名	【継続・強化】施策②:ごみ学習推進プログラム							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
施設見学者数	1,501人/年	2,000人/年以上	3,000人/年以上	1,247人/年	工事期間のため中止	工事期間のため中止	406人	620人
施策内容	ごみ減量に関する事項や地球環境問題に対する環境学習を推進し、ごみ減量意識の向上を図ります。							
社会情勢等の変化	新型コロナウイルス感染症の拡大 厳しい経済状況							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理施設の見学に関しては新可燃ごみ処理施設やプラスチック類資源化施設の建設工事や、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、見学を中止または縮小して実施していた時期があったが、現在は感染症対策を行い、見学を実施している。 ・夏休みごみ探検隊として親子で参加できるクリーンセンター・浅川清流環境組合の合同見学会を実施した。 ・リサイクルプラザの建設の目途が立たないため、リサイクルプラザでの環境学習の検討に移れない状況がある。 ・教育委員会や小学校、大学と連携し、学校が求めるごみの教育に向けて検討を進めている。 ・給食残渣等を利用したリサイクル農園の学校での実施は時間的な制約があるため難しい状況がある。保育園や幼稚園では、生ごみ残渣を園の農園にすき込み生ごみたい肥化を実践しているところがある。 							
後期に向けた評価	コロナ禍により環境学習が縮小されているので、拡大が必要。 動画配信等の新たな手段を含めて指標の見直しが必要。							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの蔓延状況に応じたごみ処理施設の見学を行っていくとともに、施設見学以外にも様々な形態による環境学習があるため、動画配信や出前授業を含めた「環境学習を行った年間人数」に指標の内容を改める。 ・新たな環境学習の創出に向けて教育機関のニーズを確認しながら進めていく。 ・環境意識の向上・啓発については、動画配信や市内事業者との連携等、時代に即した柔軟な方法を検討していく。 ・リサイクルプラザの検討に際しては環境学習の視点も含めていく。 ・リサイクル農園は保育園や幼稚園での実施を継続していく。 							

第3次ごみゼロプラン施策別進捗状況確認シート

番号	4.3.1.③							
課題・基本方針	ごみ減量の意識向上に向けた普及啓発・情報提供							
施策の分類	市民・事業者のごみ減量意識の向上・環境学習の充実							
施策名	【継続・強化】施策③:情報交換の活性化							
指標内容	指標			進捗状況				
	H27	R3	R8	H29	H30	R1	R2	R3
意見交換の場やごみカフェの設置	なし	意見交換の場設置、ごみカフェの準備	意見交換の活性化、ごみカフェの設置	検討	検討	検討	検討	協議会を設置
施策内容	ごみ減量に関する情報交換の場を設置・活性化し、ごみ減量の推進を図ります。							
社会情勢等の変化	厳しい経済状況							
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・石田環境プラザにごみ減量やSDGs等に関するデジタルサイネージや図書コーナーを設置した。 ・エコーに家庭や事業者の優良な取り組み事例として市民のページ知恵袋や容器包装お返し協力店特集等を掲載した。 ・市・市民・事業者が意見交換できる場としてごみ減量・リサイクル等推進協議会を設置した。 							
後期に向けた評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量の意識向上に向けた普及啓発・情報提供は行われている。今後も継続強化。 ・ごみ減量・リサイクル等推進協議会の設置は完了。ごみカフェは今後の検討が必要。 							
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ関連動画等を作成し、公共施設で流していく。 ・家庭や事業者の優良な取り組み事例等の有益な情報は今後もエコー等を通じて情報提供していく。 ・ごみ減量・リサイクル等推進協議会の活用については、今後も検討していく。 ・ごみカフェについては厳しい経済状況を踏まえ、費用対効果も含めて検討していく。 							